

2023年1月

いちご株式会社
2023年2月期 第3四半期
グローバル Web 決算説明会 Q&A サマリー

【説明者】

いちご株式会社（証券コード 2337 東証プライム）

代表執行役会長 スコット キャロン
財務本部事業推進部長 森作 ダン

- ※ 英語で開催された機関投資家向けグローバルカンファレンスコール Q&A の要約です。
当社 HP に音声配信と決算説明資料を掲載しておりますので、是非ご参照ください。

英語の動画配信

www.youtube.com/watch?v=SnJCaomtyuw

英語の決算説明資料

www.ichigo.gr.jp/news/p_news_file/file/Ichigo_20230112_Corporate_Presentation_FY2023Q3_ENG.pdf

1. ホテル業績が回復しているが、日本の観光需要はコロナ前に戻るか

[キャロン]

日本の観光産業は成長産業であると考えます。観光は GDP や可処分所得の伸びが需要を喚起し、アジア地域の経済成長と所得の伸びは日本市場に大きく寄与するだろう。現在見られている宿泊需要の著しい回復は、まさに始まったばかりであり、今後、中国からの観光客受け入れが本格化するに伴いホテル需要の回復も本格化するだろう。また、観光の目的地としての日本の潜在需要も大きい。

2. 現在、ポートフォリオの 24%程度を占めるホテル資産を拡大させるのか

[キャロン]

外部環境の影響を大きく受けるホテル資産のポートフォリオにおける割合は、今後とも 25%程度が上限であることに変わりはない。

3. 金利上昇による不動産市場への影響は

[キャロン]

金利上昇が不動産市場にとってマイナス材料であることは否めない。だが、ゼロから開発・建設を行う他の不動産企業に比し、心築（※）を軸とする当社は、建設コスト上昇の影響がわずかであり、金利上昇の影響を受けにくい。また、金利上昇の原因であるインフレが当社保有資産の価値上昇をもたらす、当社の保有資産の魅力が高まる。

（※）心築（しんちく）とは、いちごの不動産技術とノウハウを活用し、一つ一つの不動産に心を込めた丁寧な価値向上を図り、現存不動産に新しい価値を創造することをい、日本における「100年不動産」の実現を目指しております。

4. 再生可能エネルギー事業の今後の戦略は

[キャロン]

当社は、独立系の再生可能エネルギー発電事業者として国内有数の規模を有しており、現在、50MW から 200MW 規模の太陽光発電を含む再エネ事業の拡大を目指している。日本は、電子機器・部品、自動車部品を含む自動車業界等の層の厚い輸出産業を擁しており、電子部品等に対する世界的な脱炭素に向けた取り組みを考えると、日本の産業界からの再エネ需要は膨大な市場を生むと考えられる。当社は、現在稼働中の発電所の 100%近くを自社開発しており、この需要に応えるための保有発電所の拡大に関しても自社開発が中心となろう。

以 上